



サイコウサイエンス sci-甲! 甲南高校

担当：1年2組（福留・吉鶴）、1年3組（岩本・中村）

1 研究の最前線を聴く～研究を知る講座（1年）



6月25日（金）1年生を対象に「研究を知る講座」が開かれました。講師として鹿児島大学・鹿屋体育大学から10名の先生をお招きし、生徒たちは希望する2講座を聴講することができました。

鹿屋体育大学教授前田明先生は、「国際競技力向上に向けたスポーツ最前線」という講義テーマでお話ししてくださいました。研究では、スポーツと科学の融合によって選手の身体の使い方等を分析し、パフォーマンスの向上を図っているそうです。また、多くの有名選手が訪れるほど最先端の研究設備が整備され、様々な分析を行っていることを聞き、これから先、科学技術によってスポーツがどのように変化していくのか楽しみになりました。

また、鹿児島大学大学院理工学研究科理学専攻教授伊東祐二先生は、「理学部から医薬品開発を考える～タンパク

質から作られるバイオ医薬品～」という講義テーマでお話ししてくださいました。先生は、免疫反応で中心的な働きをするタンパク質である抗体に注目し、



様々な抗体医薬品の開発に関わる研究をしているそうです。私たちの身体の部品であるタンパク質の研究をしたいという一心で、これまで研究を続けてきた先生ですが、その過程には多くの失敗があったとのこと。しかし、そもそも成功する確率は1%以下であり、繰り返しチャレンジすることが研究の上で大切だと教えてくださいました。



マウスの脳のフラパートを観察中

他にも魅力的な講座が多くあり、大いに興味関心をかき立てられました。大学での研究が楽しめると同時に、自分たちのSS探究の時間の研究にも、しっかりと取り組みたいと思いました。

2 デイベートに挑戦！～SS探究II（2年）

6月3日（木）、10日（木）のSS探究IIの時間、2年生は論理的・批判的思考力の向上を目指して、デイベートにチャレンジしました。デイベートとは、あるテーマについて肯定側と否定側とに分かれて討論を行うことです。デイベートに関する説明を受けた後、今回は「制服は本当に必要か」「バレンタインは廃止すべきか」など、様々なテーマに分かれてデイベートが行われました。



このうち「都会は本当に住みやすいのか」というテーマでは、肯定派の意見として「色々なお店がある」「交通が便利」といったものが挙げられました。一方否定側の意見としては、「自然が少ない」といった意見が出ました。そして討論の結果、肯定側の勝利となりました。

デイベートを終えた2年生からは、「反論されると悔しいが、それにまた反論することで、議論がより深まってくることが分かり、楽しかった」という声が聞かれました。様々な意見を踏まえ、多面的かつ論理的に思考する経験は、これからの課題研究にもきっと生かせると思います。

3 いざ！中間報告会！～SS探究II（2年）

7月14日（水）に2年生は中間報告会を迎えます。SS探究IIの時間はそのための準備に大忙しです。

あるグループは「立腰（りつよう）に適したクッション作り」を研究しています。立腰とは、背中と座っている面が80度くらいになる座り方のことで、内臓等への圧迫が少なく集中力も保てるそうです。来年の夏を目処に、立腰に適したクッションを作り、姿勢を良くすることで集中力を高め、勉強の効率アップに繋がりたいとのこと。そのため現在は既製品のデータを参考に発泡スチロールの型を作り、柔らかい材質や堅い材質を試しているそうです。

この他にもたくさんの研究が発表される予定です。どんな発表がなされるのか、今からとても楽しみです♪

